

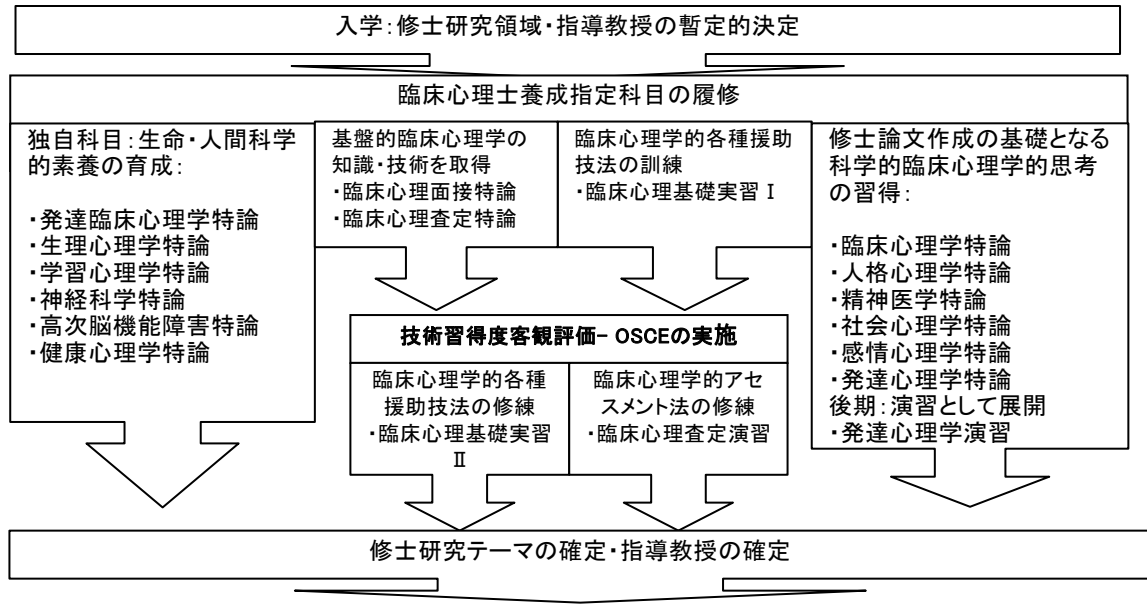
教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	北海道医療大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育		
主たる研究科・専攻名	心理科学研究科臨床心理学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 高橋 憲男		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>大学院心理科学研究科臨床心理学専攻は、それまで設置されていた看護福祉学研究科臨床福祉・心理学専攻を基盤として、より専門的な臨床心理学教育ができることをねらいとして、平成14年4月、基礎学部となる心理科学部とともに開設されたものである。修士課程は、(財)日本臨床心理士資格認定協会第1種指定大学院として臨床心理士の養成にあるとともに、博士後期課程では臨床心理学領域における高度職業人の養成と研究者養成に携わってきた。同時に、併設されている心理臨床・発達支援センター、北海道医療大学病院、および学外の医療機関との十分な連携のもとに臨床心理学の研究教育に成果を上げてきた。</p> <p>しかしながら、これまでの教育研究活動を自己点検・評価すると、今後の大学院教育の実質化を図り、<u>高い信頼性を確保するためには、以下のような改革の課題を指摘することができる。</u></p> <p>①現行の教育課程は一般的心理臨床能力を形成するに必要な科目であり、臨床的出来事を科学的に理解し、実践できるという「<u>科学者実践家モデル</u>」を考慮し、今日的な社会的要請を考慮すると、より専門性に富み、かつ、当該の大学院がおかれている地域特性をも組み込んだ履修プログラムが必要である。</p> <p>②本学大学院心理科学研究科臨床心理学専攻ではこれまで、患者さんを全人的に理解し、かつ、<u>医療現場における多職種との機能的なチーム医療を行うことができるよう、医療系の他職種の養成課程で導入されているOSCE(Objective Structured Clinical Examination:客観的臨床技能試験)を臨床心理士養成教育の中に導入するとともに、北海道医療大学病院、および提携協定を結ぶ医療施設(精神科、神経科、心療内科、小児科等)において医師、歯科医師、看護師、精神保健福祉士等と共同する形で臨床心理学的援助の実習を行ってきた。今後、これらの実績を発展させる形で、医療系の領域で要求されるより実際的かつ専門的な教育プログラムを準備する必要がある。</u></p> <p>③発達支援の領域においてはこれまで、北海道安平町をモデル地域として設定し、安平町が実施する「安平町子ども発達支援事業」に参画し、<u>心理臨床・発達支援センターの事業として積極的に地域支援に携わり、その中で大学院生の教育を行ってきたが、今後、地域行政や企業等と一層連携を強化することで、より生活に密着した臨床心理学的援助活動に携わることでできる専門職業人の養成が必要である。</u></p> <p>④「e-Japan」の構築が国策となっている社会的情勢を鑑み、距離・時間を超えて効果的に活用することのできるインターネットシステムに基づいた臨床心理学的援助システムの構築は、「<u>遠隔地臨床心理学的援助システム</u>」として、将来にわたり広く国民の福利厚生に資すると考えられるが、こうしたシステムの構築を本学が行うことは、まさに<u>地域特性を考慮した課題</u>である。</p> <p>以上のことから、今回の申請プログラムでは、上記のような問題意識のもと、大学院の教育課程の内容をさらに改善・充実することによって、<u>修士課程では、より一層バランスのとれた臨床能力を備える高度専門職業人の養成、および研究者としての基礎的能力を備える人材を養成する教育プログラムを確立し、我が国における臨床心理学専門職業人養成のモデルを社会的に提供したい。</u>また、博士後期課程においては、この領域の高等教育機関における指導者、専門職業人に対する指導者、および基礎研究と臨床研究を自立的に進めることのできる研究者を養成したい。</p> <p>申請プログラムの年次計画としては、初年度を上記課題①～④の問題意識に基づく新規教育課程の試験的開発とその実施、および評価ツールの開発にあて、第2～3年度には逐次改善修正を加えながら継続実施する。第3年度には、総括と評価を行う。また、第2～3年度には、成果の中間評価を兼ねてシンポジウムその他によって広く学外者の意見を聴取し、議論を重ねていく。そして、<u>申請プログラム終了後には、本学独自のプログラムとして自立して継続し、大学院教育の実質化を一層図ることができるよう展開していく。</u></p>			

履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

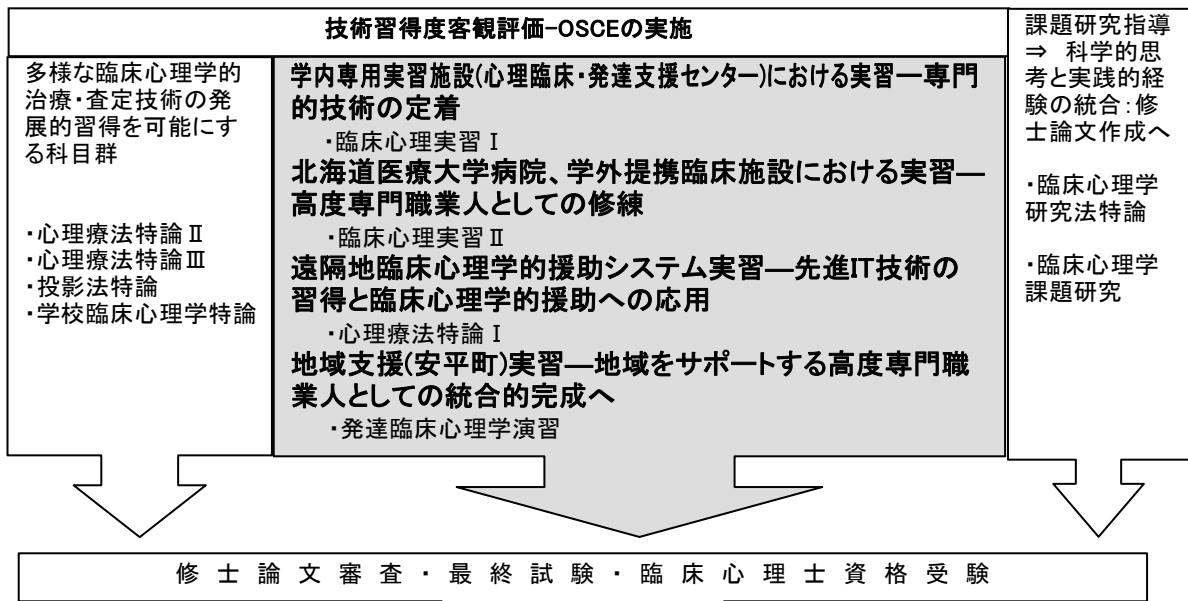
《科学者実践家モデルに基づく科学的基礎力の涵養》

修士課程1年次



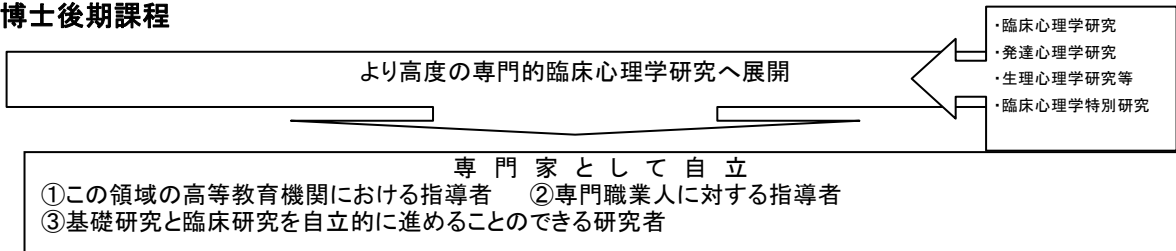
《科学者実践家モデルに基づく実践力の涵養》

修士課程2年次



・修士(臨床心理学)の授与 ・地域に貢献する臨床心理士、臨床心理技術職種者等の輩出 ・博士後期課程進学

博士後期課程



・博士(臨床心理学)の授与 ・社会をリードする臨床心理実践家、研究者の輩出

<採択理由>

臨床心理学においても、世界的な趨勢は、臨床介入や心理療法の効果の実証的な評価が求められている点である。大学院教育の実質化の面では、「科学者実践家モデルに基づく臨床心理家の養成」という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、医師、看護師、保健福祉士等との共同、安平町での発達支援、遠隔地臨床心理学的援助などを通し、学生に多様な経験をさせながら実践力、基礎研究力を伸ばそうという考えはユニークであり魅力的である。臨床心理士だけでなく、医療の現場との連携など、地域に密着しながら教育を進めていく点も、地方の大学としての改革の優れたケースとして高く評価できる。社会人や他大学出身者に不利益が生じないように配慮がなされている点や、様々な媒体による情報提供が行われている点も評価できる。

修士課程における科学的基礎力、実践力の涵養についてはよく説明されており、学生に多様な実証的経験を踏ませながら、実践力、基礎研究力を伸ばしていこうという狙いは評価することができるが、博士後期課程の教育プロセスについては、更なる具体化が望まれる。